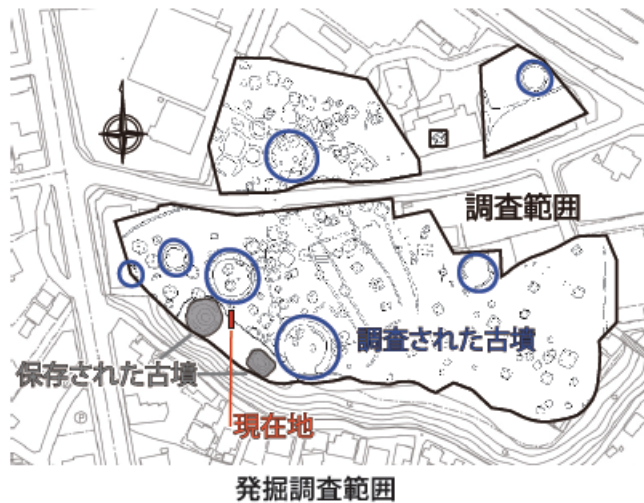


戸張作遺跡

Remains of Tobarisaku



Foreign Languages



された古墳からは、鍔に銀像嵌の装飾を施した直刀や鉄鏃が出土しており、有力な豪族の拠点の存在がうかがえます。

弥生時代以降に中核的な集落が営まれるなど、この地域が早くから開かれていたことを伝える重要な遺跡といえます。

戸張作遺跡は1988年から1996年まで発掘調査が行われ、弥生時代から古墳時代にかけてのムラの跡が発見されました。

弥生時代以降は稲作が本格化するため、多くの集落は水の豊富な低地に近い、小高い土地につくられました。戸張作遺跡も葭川の支流を西に臨む、標高約20mの台地上にあり、居住に適した場所です。

調査では、弥生時代の環濠集落（深い溝で区画されたムラ）や、古墳時代の多くの竪穴住居跡、9基の古墳が発見され、うち2基の古墳は現在も公園内に保存されています。調査



出土した銀像嵌鍔

2025 年 3 月 千葉市教育委員会